

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年四月度 入選句 (投稿総数千九百四十九句・小中学投句数千百七十四句)

特選

選者 白井 静子

妹のきりがなくつくしつみ 大垣市 吉岡 優風(小四)

つくしつみは楽しいですね。どこにあるかな、もつと長いつくしはないかなと、どんどん摘んできりがありません。

作者は妹と一緒に摘みに来たのでしよう。手にいっぱい摘んだら、それ以上はもう持てません。でも、妹は諦めません。スカートの中にも摘んでいきます。初めは「たくさん摘んだね」と感心していた作者も、「すこいねえ」と、半分呆れていたのかもしれない。

楽しそうにつくしを摘む妹を見ている作者の、優しい眼差しが感じられる素敵な俳句です。

夜桜を買い物帰りに母と見る 大垣市 杉原 由唯(小六)

今の時代は、大人も子どもも忙しいです。仕事を持っている大人はもちろんですが、子どもも子どもなりに忙しい。そんな母と子が、夜桜を見たのですね、買い物帰りに。

ライトアップされていたのか、春の灯に照らされていたのかは分かりません。しかし、昼間とは違った印象を受けたことでしょう。

忙しい毎日に緊張していた母と子が、夜桜を見てほつとしています。「きれいだね」と、美しいものを見て共感したひととき。「母と見るとさりと詠んだ中に、同じ時間を共有できた温かさが感じられます。

妹も春から同じ小学校 大垣市 炭竈 凜奈(小三)

今までは、一緒に登校する家族がいなかったのですね。でも、四月からは違います。妹が、一緒に登校できるのです。そのことがとてもうれしくて、この句ができました。

「うれしい」という言葉はありませんが、「同じ小学校」という言葉から、その気持ちが伝わります。特に「小学生」ではなくて「小学校」としたところがよいです。「一緒に登校したり同じ日に遠足だったりして、きつと、先輩としていろいろ教えてあげよう」という気持ちも芽生えたことでしょう。妹に優しくしてあげたいという温かい気持ちが伝わります。

秀逸

雪うさぎいまにもピョンとはねそうだ 大垣市 長谷川 七葉(小四)

じはんきのコンソメスープあたたかい 揖斐郡大野町 林 あんな(小二)

はるのかぜとおいやまからふいてくる 大垣市 ごしまりようや(五才)

もくとうを捧げる方へ春の風 大垣市 濱川 尚士(小五)

ちようちよさんともだちどおしでおにごっこ 大垣市 木村 妃咲樂(小四)

ボールけるぼくのあしもとさくらちる 大垣市 森 叶 太(小四)

たんぼぼが遊ぼ遊ぼとさそってる 大垣市 三輪 彩乃(小六)

風に乗り散った桜がまいあがる 大垣市 村上 暢(小六)

かぜふいてさくらシャワーのプレゼント 大垣市 神田 彩成(小五)

入選

スケボウでターンもできる春の風  
 かざぐるま回れ回れといきふくよ  
 風がふく桜の花びら空にまう  
 さくらさん高いところはきもちいい  
 さくらみちもったいなくてあるけない  
 さくらさくドキドキするねクラスがえ  
 庭先にもんしろちようのお客さま  
 花見して写真をとるのわすれてた  
 おかえりと空飛ぶツバメにごあいさつ  
 さくらちり母のあたまにかみかざり

愛知県岡崎市 鳥居 心美(小三)  
 大垣市 矢島 萌々佳(小四)  
 愛知県扶桑町 青山 京華(小六)  
 大垣市 米山 あい(小三)  
 大垣市 奥田 真央(小三)  
 大垣市 荒川 美優(小四)  
 大垣市 糺矢 みう(小四)  
 大垣市 酒本 晃輔(小四)  
 大垣市 廣瀬 涼雅(小四)  
 大垣市 吉田 奏(小五)

入選

水門川さくらの命ながれてく  
 毎日の笑顔見守る桜の木  
 あめのなかしだれざくらのいろかわる  
 こいのぼり元気いっぱいはねあがる  
 たんぽぽにあいさつしたらゆれている  
 ふまれてもまけないたんぽぽなりたいな  
 さくらさん風となかよしユーラユラ  
 ランドセルせなかでゆれる一年生  
 疲れたと一年生がだだこねる  
 春の花数え歩いたさんぽ道  
 風に乗る家族旅行のこいのぼり

大垣市 西本 多恵(小四)  
 大垣市 榎並 美月(小五)  
 大阪府箕面市 安永 史歩(九才)  
 大垣市 久保 湧雅(小五)  
 大垣市 かげ山 りの(小三)  
 大垣市 松崎 颯汰(小三)  
 大垣市 森田 悠斗(小四)  
 大垣市 富田 美咲(小四)  
 大垣市 郡 弘 昇(小六)  
 大垣市 佐久間 亨弥(小六)  
 大垣市 山村 心愛(小五)

選者吟

春の風待ち人は衿立てて来る

静子